

仏教をお開きになったのはお釈迦さまであるということは、ご存じのことでしょう。

お釈迦さまは、お生まれになった時「ゴータマ・シッダールタ」と名付けられました。そして、さとりをひらかれて「釈迦牟尼仏」となったのです。「釈迦」とは釈迦族の出身という意味です。「牟尼」は、尊いという意味で、「仏」は仏陀、覚った人という意味です。

その、「釈迦牟尼仏の教え」「仏陀の教え」が仏教です。お釈迦さまの教えを、道元禪師が修行を通じて受け継がれ、その流れが私たちの曹洞宗なのです。

皆様は、お釈迦さまと聞くとどのようなイメージをお持ちになるのでしょうか。

いわゆる神様とイメージを重ねる方。または、超人的な力を発揮して、多くの悩める人々を救った人という、そんなイメージをお持ちの方が多いのかもしれません。

確かに、経典の中には、そのような記述もあります。しかし、それらの記述は、お釈迦さまが亡くなった後に、お釈迦さまの偉大さを表すために創作されたものなのです。

原始仏典といわれる、ごく初期につくられた経典には、実際にお釈迦さまが語られた多くの言葉が残されています。

その経典からは、お釈迦さまもまた、私たちと同じ人間であり、そして私たちと同じ悩みをもち、苦しんでいた一人なのだを知ることができます。

人間の根本的な四つの苦しみを、仏教では「生・老・病・死」といいます。

お釈迦さまは、思い通りに生きることができないことに悩み、老いていく自分の将来に悩み、いつ病気になるかわからない体に悩み、そして、必ず死ぬということに悩み苦しんだのです。

その悩み苦しみを解決するために、出家という道を歩まれました。

悩み苦しみは私たちと同じでも、お釈迦さまのそれは、より深く、より真剣だったからこそ、さとりをひらくことができたのです。そしてその教えは、二五〇〇年も続くお釈迦さまの教え、仏教として、今なお多くの人々に必要とされ、人々の人生を支えているのです。

その教えこそが、「生・老・病・死」を代表とする私たち人間の悩み苦しみから、人生を支えてくれる道となるのです。